

鳥羽市議会改革推進特別委員会会議録

令和 4 年 6 月 8 日

○出席委員（13名）

委員長 坂倉 広子
委員 南川 則之
委員 瀬崎 伸一
委員 奥村 敦
委員 中世古 泉
委員 浜口 一利
委員 世古 安秀

議長 木下 順一

副委員長 山本 哲也
委員 濱口 正久
委員 片岡 直博
委員 河村 孝
委員 戸上 健
委員 坂倉 紀男

○欠席委員（なし）

○職務のために出席した事務局職員

事務局長 岩井 太
議事総務係書記 岡村 なぎさ

次長兼
議事総務係長 平山 智博

(午後 1時01分 再会)

○坂倉広子委員長 こんにちは。

それでは、ただいまから議会改革推進特別委員会を開催いたします。

これより議事に入ります。

本日も協議いただく案件は、事項書のとおりです。

それでは、協議事項1、議員定数についてを議題といたします。

前回の協議では、これまでの協議で決めたテーマについて皆様の意見を伺ってまいりましたが、今回も前回に引き続き協議を深めてまいりたいと思います。

協議を始めるに当たり、事前に配付させていただきました前回の議論の概要について振り返りたいと思います。

お手持ちの資料1をご覧ください。

資料の上段には主な意見を、下段にはそのまとめを記載しております。

前回の議論では、人口減少・市民アンケート等について、それぞれのテーマで現状維持すべきとの理由、定員を削減すべきとの理由について意見がありました。これらの前回の意見を踏まえ、引き続き議論をしていきたいと思います。前回から2週間ほどたち、新たな意見や考え等も出てきたかと思っておりますので、闊達な意見をお願いいたします。

それでは、よろしく願いいたします。

山本副委員長。

○山本哲也委員 前回、ある程度議論いただいた中で、もうちょっとしたほうがいいんじゃないかというところで本日を迎えておるわけなんですけれども、前回、終わりが濱口正久委員のほうからもうちょっとしたほうがいいんじゃないかというところやったと思うんですけれども、例えばどの辺とかというのがあれば、テーブルに投げてほしいなと思いますけれども。

○坂倉広子委員長 濱口正久委員。

○濱口正久委員 前回終わったときに、もう少しまとめようと考えて、それでもさらに意見を追加する意見があるのであれば、今回、出していただきたいというのがありました。自分の中では、これを見させて止め直しさせていただいても変わることはなかったという結論がありますので、今回に関してはありませんけれども、皆さんがそれでよければそうなのかなと思いますけれども、そんなでよかったですかね。どうなんですか。

○坂倉広子委員長 山本副委員長。

○山本哲也委員 ある程度、全ての話に納得されとるような感じで捉えていいんですか。出とる意見に対して、その考え方とかいう部分はほぼほぼ納得できる形でいってもうとる感じ。

○坂倉広子委員長 濱口正久委員。

○濱口正久委員 自分の主張に関しては、それなりの考えありますけれども、人の意見はあくまで人の意見かなというのがあって、そこに対して、多分、平行線はたどるところはしようがないのかなというのが、感じてし

まうところがやっぱり。この間のときもやっぱりあったので。というのがありますが、自分なりの考えとかというのは変わることはないんですけども。

○坂倉広子委員長 山本副委員長、お願いします。

○山本哲也委員 いろいろとご意見出とる中やと思うんですけども、それぞれ、僕、ちょっといろいろ捉え方が違うところが皆さんとあったりとかするところがあって、基本的に削減すべきやというところは変わらないんですけども、前も聞いたかもしれないんですけども、人口が減ってきているから減らすべきやという方も何人か見えますし、市民の声が大事やからというて、それを受けて減らすべきやと言っている方も見えると思うんですけども、そこのところの捉え方も、それぞれ個人個人違うところがあると思うんです。

人口が減っているからというところで減らしてしまうのは、ちょっと僕はどうなのかなというところはあるところもあって、けれどもやっぱり人口減少が進んでいるから減らしましょうよと言っている議員さんも見えるんで、その考え方とかという部分もうちょっとしっかり話してほしいなと思っていますし、市民アンケートについても、これはもうしっかり捉えやなあかんやろと言われる方も見えるんですけども、僕も、市民が減らさなあかんよねって言っているから、じゃ、減らしましょうというのは、僕はちょっと違うなと思っているところがあるんで、でも市民の声は大事やよと言っとる人は、そのどこを大事にしとるかとか、もうちょっとちゃんといろいろ皆さんしっかりしゃべってほしいなというふうに思うんです。

僕、個人的には、今回判断することというのは、すごく責任が重たいことやと思っています、今、現状、削減のほうが多い現状になっているんで、このままいけば削減することになるであろうとは思うんですけども、その判断をするというのはすごく僕は重たいことやと思っています。それを軽く考えておられる方はいないと思うんですけども、もうちょっとそこをしっかりと話ししながら進めていただければいいなというふうに思っていますので、今日、せっかくこのお時間をつくっていただいたんで、皆さんに。できればしっかりその辺を議論、お互いの考え方、平行線であるかもしれませんが、じゃ、どう考えとるかというところをしっかりと示していただかないと、その判断する責任というか、そこをしっかりとしていきたいなというふうには思うんですけども。

じゃ、どう質問投げた方がいいかも分からないんですけども、ちょっと質問を考えさせてもらいます。

○坂倉広子委員長 ありがとうございます。

浜口一利委員、どうぞ。

○浜口一利委員 副委員長が言われるというのも、私も分かります。当然、いろいろ市民意見もあって、その中の各議員の、2人減とか、1名減とかという、そんなことになっているんだと思うんですけども、定数削減とか、定数が何人というのは、これまでも議論がようけあったということなんですけれども、ここで私も考えてほしいのは、最初から私はもう2人減だから、もう2人減でいこないとかという議論ではなくして、せっかくこの時間取ったわけなんで、私は2人減で、そのような考えでおったけれども、いろいろ話聞いたら多少というような、そのような協議の考え方でやっていかないと、最初からもう採決採って、ぱっと決めたいということではなかったわけなんで、この時間費やしたというのは。そのあたりでやはりこれまでの議論が価値あるような、最終的な判断という、難しいとは思うんですけども、そんなことで今回は考えてほしいなと、私も思います。

ここでこれから議論していただきたいのは、私としては、少数精鋭というような市民意見がたくさん出ていると思うんですけども、果たしてそれが可能なかどうかというあたりも、これはやっぱりいろいろ考えなきゃいけないし、定数削減して議会の機能が果たせるのかという現状をやっぱり、この3年前もなかなか委員会の機能とか役職、役職というとか何かあれやけれども、役を決めるときにもなかなか難しかったような状況なんで、そのあたりも考えた中で議論を深めていったほうがいいのではないかと思います。

○坂倉広子委員長 ありがとうございます。

濱口正久委員、どうぞ。

○濱口正久委員 このまとめのところに書かれている、現状維持と定数削減のいろいろ書かれています。僕自身は、14人が定数であるという必要性が、その根拠が分からないというのが一つと、10人に減らして維持できないという根拠も自分の中で分からない。僕はできるというふうには思っています。現に、いろんな状況を自分なりに、ここに書かれているような状況も含めて自分で判断する中で、僕は、委員会を一つにまとめて今後やっていくという方向からも、議会力が12人で低下するとは思えないので、それは2減らすのか、1減らすのかというのは皆さんが決めて、自分の意見とは別、もし減らせる場合の中に、減らしたからといって議会力が低下するというのは、今、現状で僕自身も感じられないというのがあります、そこは。

現状維持のほうがいいのかと言われると、それもそうではないというふうに判断、自分の中ではしています。そういう人口減少等もあるかも分かりませんが、定数的にいくと、今の状況から考えていくと、現状維持というのは非常に厳しい。けれども、減らしたからといって議会力が低下するとは思っていないというのがあります。答えになっているのか、なっていないのか分からなくなってきた。

○坂倉広子委員長 ありがとうございます。

山本副委員長。

○山本哲也委員 紙出してもうたときには、濱口委員は、LINEアンケートの結果とか市民の声を聞かせてもらって、人口減少と他市町の比較から2名減がいいんじゃないかというところを出してもうとったじゃないですか。その辺のところという部分は、出しとったけれども、いろいろ話を聞きながらというところで、あるということですか。

○坂倉広子委員長 濱口正久委員。

○濱口正久委員 自分の中では、当然それは尊重すべきやということがあります。皆さんのその意見の中に、議会力が低下するとかというところの判断からいっても、そこのところは、それを抜きにしても、そこは普通に維持できるんじゃないかなというのが、現状、私、見ていてそういうふうに感じました。一致団結してやれば、議会力としてはそれなりのものは維持できるんじゃないかなと。ただ、今のこと考えると、現状維持は非常に厳しいというのが私の意見です。だから、その辺のところの人口減少とか、LINEアンケートというのは、かなり私の中ではウエートは大きかったんですけども、比較とか。

それを、皆さんの、現状維持の人の意見を聞けば聞くほど、逆にそうなのかなというふうな疑問が出てきたというのが正直な。だから、維持したら議会力が維持できるというふうなものイコールではなくなってきたというのが、そうなのかなというのが、減らしても維持できるんじゃないかなと思ってきたのは確かです。そこからは大きく変わりました。理由の中では。

○坂倉広子委員長 ありがとうございます。

ほかにございませんでしょうか。

皆さんの意見を聞かせていただくというのが、今回、持たせていただいた場だろうと思いますので、もし、よければ順番にお話。

濱口正久委員。

○濱口正久委員 皆さんに、先ほど僕が言うたように、議論を重ねて考え方が変わったのか変わらなかったのかというのと、変わらなかった理由もどうなのかというのと聞いてみたいというのがあります。その中で、現状維持なのか、定数削減なのかというのも含めていろんな、議論重ねた結果の話は。すみません。

○坂倉広子委員長 ありがとうございます。

お一人ずつお伺いさせていただいてもよろしいでしょうか。すみません。そしたら、こちらから順番にお話しさせていただいてもよろしいでしょうか。

戸上委員、よろしいですか。

じゃ、すみません、戸上委員、よろしくをお願いします。

○戸上 健委員 僕もこれまで自分の持論というのは、意見というのは言い尽くしました。あとは同僚議員の賢明な判断ということになります。

冒頭、副委員長が指摘されたように、僕は、今は議員定数削減という同僚議員の方が多いいけれども、二元代表制で、執行部の力に対して議会が相応の力を発揮するために、自らの力を量的に減らして妥当なのかということを考えなきゃいかんというのが一つ。

それから、世論、市民の意見ですけれども、僕、6月1日付の僕の新聞で、全市民的にも出したんやけれども、市民にも責任がありますよと。有権者として。こんなとんでもない議員がおると、だから減らしても構わんというような意見もありました。そういう議員を選んだのは有権者のあなた方ですよということを、僕は率直に書きました。ですから、アンケートで削減ということが多数ですけれども、そこをもっと掘り下げて、我々が考えなきゃいかんのかなというふうに思います。

それから、アンケートや市民の意見をいろいろ伺つとると、本当に活発な議会にしてほしいと。市民に役立つ議会になってほしいと。そのために、もう議員一人一人が汗をかいて、目に見えるような、我々や市民の目に見えるような活動をしてほしいと。そこで一致しとるんですわ。そうならないから議員数を減らせとやうとるわけです。

僕は、議員定数削減を言うてござる方々にお聞きしたいんやけれども、ずっと発言をされておると思うもので、そこでぜひ触れていただきたいと思うんやけれども、仮に13にする、10人になると、今の人数を減らしますわな。僕は、次の定数維持で、次の改選で市民が、これだけ問題になりましたし、僕も有権者がきちんと考えろということ投げかけました。ですから、今度はもう考えてくれるというふうに思うんですよ。ですから、もう、箸にも棒にもかからんと、何の質問もせんと、発言もせんと議員を、有権者が次回は選ぶことはあり得ないという、僕は有権者の良識のレベルを信頼しています。

その上で、議会として仮に10人にした場合に、僕は現状14人で、木下議長、河村副議長の下で記者会見も始めて開いたし、ミライトークも山本副委員長の下で、本当に活発に、市民のリクエストに応じてやってき

たというふうに思うんです。議会としてはこの3年間は非常に頑張ってきたというふうに思うんです。この頑張りに、またプラス、バージョンアップしていけば、僕は市民の願いに応えられる議会に一步一步近づいていけるというふうに思うんです。

量的に減らせと、減らしても構わんという主張をなさる議員にぜひお聞きしたいんやけれども、じゃ、12人にして、議会力をアップする、もう活発にすると。もう12人の、議長を除いて11人が、毎回、一般質問出すと。議運で高浜市を視察したときに、あそこ18人おって、議長を除く17人が大体、毎回、一般質問出すということを言うてましたが、僕も感心したけれども。今回も5人やろ、一般質問。それでもう顔ぶれ決まっとるわな。この今期3年間で一遍も質問出さんと、1回か2回だという議員が、議員数を削減するという論調に立たれるのであれば、じゃ、どうするんかと。12人にして、市民がもっと活発にしてくれと、市民に役立つ議会にしてくれと。そして、顔の見える、動きの分かる、そういう議会にしてくれという声に、じゃ、どういうふうに私は応える、こういう案があるというのをぜひ言うてほしいと思うんですわ。

その上やないと、僕は議員定数削減というのを、本当に議会の、自分で自分の首を絞める、本当に後世に悔いを残してしまうような判断を、今のこのなるい感じで。

中世古泉議員に僕は言いたいし、聞きたいけれども、あなた一遍も一般質問に立たんと、この間。それで何で議員定数を、2人削減なんやろ。削減しても構わんと。そしたらあなたは、12人でどういうふうに活発に、こういう議会にするという中世古泉プランというのを言うてほしいというふうに思う。これは、もう泉さんをちょっと例に出したけれども、減らすという議員の皆さんにそのあたりをぜひお聞きしたい。

そして、これをユーチューブでご覧になっている市民や、それから、ミライトークやったときに現状維持という方もいらっしゃいましたが、それで削減が議会改革じゃないということ言うた公聴人というか、ある方も見えました。そういう方に、議会は本当に深い議論をしたなというふうにならんと僕はあかんというふうに思うんです。この定数削減の議会改革推進特別委員会が。

それで、それぞれの議員の皆さんが本当に自信持って、10人にした、13人にした場合には、こういう改革案を僕はぜひやりたいと。引退される方も見えると思うけれども、再び議会人として頑張るという方もいらっしゃるわけやろ。それで、そういう思いというのを、ぜひ僕はお聞きしたいというふうに思いますし、僕だけじゃなしに、多くの市民が、有権者が、一人一人の議員はこの問題に対してどういうふうにそれを思とんのやと、活発な議会にするためにどういう案を持つとるんやということは、僕は固唾をのんで見守るとるというふうに思うんです。

ちょっとごめん、委員長。ちょっと僕もエキサイトして、皆さんにかちっと来るような発言やったかも分かりませんが、ご容赦ください。

○坂倉広子委員長 ありがとうございます。

それでは、お一人一人、ちょっと意見を聞きたいというご意見があったと思いますので、南川委員、お願いさせていただいてよろしいでしょうか。

ご意見どうぞ。

○南川則之委員 私の考えというんですか、当初から話してきたことというのは変わらないということで、削減もやむなしということです。これは、いろんなこと私も言うてきましたけれども、いろんな条件を加えて考慮

しても、やはりそうせないかんという時期に来ておるんやないかというのが結論です。

それと、この定数削減の議論を始めてから、いろいろ市民の方にも聞きながらおるんですけども、ぶっちゃけた話、いつまでやっとなのやというような声もあるし、早く決めないかんという意識もあります。

それと、委員の中から、削減しても議会力どうなんやということはあると思うんですけども、私は、10人にしても議会力が低下するということは絶対ないと思います。そのときになった議員がしっかりと市民の付託を受けて頑張っていけばやれると思います。ということで、削減はやむなしの中で考えないかんということで、定数の何人というところは、もう一度しっかりとまとまって話ができれば一番いいかなと思います。

ということで、何とか現状維持であれば、今後の議会の発議にもせなくてもいいということで、当然、議員定数のテーマというのは永遠のテーマということで、これからも続けていかないかんと思うんですけども、どちらかにしっかりと議論を集中して、削減であれば、当然、発議まで持っていかないかんということで、さらに議論を深めないかんというところもありますので、今日の時間も取ってもらいましたけれども、私の考えは削減ということで変わらないという意見です。

(「質問させてもらってもいいですか」の声あり)

○坂倉広子委員長 はい。

ちょっと質問も、ディスカッションさせていただいてよろしいでしょうか。

(「どうぞ」の声あり)

○坂倉広子委員長 山本副委員長。

○山本哲也委員 ちょっと南川さん聞かせてほしいんですけども、減らしていい根拠的なものというのは、その出してもらったやつから変更ないという格好なんですかね。減らさなあかん時期やというて言われたと思うんですけども、時期的なもので減らすんかというところどうなんかなとも思うし、じゃ、何で減らしていいかという根拠を、できれば明確に、お持ちであればそこを示してほしいなというふうに思います。戸上さんおっしゃっていただいたように、減らすべきじゃないであろう、ないというところの根拠は全部出してもらって、逆に減らす側としてもしっかりその辺、根拠出してあげないと多分納得もしにくいでしょうし、全員で、議会として共有するに当たっても難しくなるかなとは思っているので、そこは明確に出してほしいなと。

○坂倉広子委員長 南川委員、どうぞ。

○南川則之委員 今の質問で、当初、私が考え方ということを出させてもらっています。その中でも、平成、前回の改定からずっと12年間変わっていないというところとか、人口減少の話も私もさせていただきましたけれども、それも重要だという話と、あるいはそういう世論の声というんですか、市民の声も大切やよということで、アンケートの結果とか、LINEのアンケートの結果とか、そういうところも加味して考えさせていただきました。

それと同時に、削減したから、今の議会の中身、これは市民もあまり分からないところなんですけれども、議会力が低下するということはないということの判断も、そういう委員会を1本にしたというところで十分機能は果たせるんじゃないかということで考えを書かせていただきました。

先ほど、一番冒頭で言うたように、いろんな条件を考慮しても、そういったところで現状維持というのはちょっと考えられないということで、削減の方向だという意見はずっと変わらないという私の意見です。

○坂倉広子委員長 ありがとうございます。

片岡委員、お願いします。

○片岡直博委員 現状維持、削減、いろいろ意見があるわけですがけれども、現状維持の方の考え方というもの、なるほどかなとうなずけるところもあります。が、しかし、絶対的条件といえはおかしいんですけども、私自身としては、人口が4,000人減ってきておると、前回よりも。やっぱりこの最後の重りというのが、私には、マイナス4,000人が決定的な条件と考えております。

以上です。

○坂倉広子委員長 ありがとうございます。

じゃ、奥村委員、お願いします。

○奥村 敦委員 私も個人的に現状維持というふうには思うところは当然でございます。前回、公聴会のほうで来ていただいた2名と、私、事前に議員定数についてお話をさせていただいて、1名、現状維持の方とお話をさせていただいて、その意見というのは思うところがございました。しっかりもう一人の方とお話をさせていただくに当たりまして、当然、私の意見も聞かれますので、やはり市民アンケートと公聴会での意見を踏まえてから判断をしたいということをお話をさせていただいていたこともございまして、やはりアンケートを取った限りには、そのアンケートの結果というのはやっぱり尊重すべきだろうということも、私自身は思っております。当然、公聴会でのことも踏まえてというところで考えたところ、2名減という判断に至ったところでございます。

以上でございます。

○坂倉広子委員長 ありがとうございます。

濱口正久委員。

○濱口正久委員 定数に関する考え方の、最初のときに出させていただいた2名減の中の理由の中に、私がこれ書いて、ほかの皆さんどう思っているか分からないですけども、議員活動の活発化、質の向上のためには、併せて議員報酬と政務活動費の増額を見直しすべきという話は、私、書かせていただきました。これを2名分減らした上で、1名分をそれに充てるべきではないかなと。

それで、皆さんが言うているような、14名そのまま現状維持でいけば議会力が保たれるとかというのは、私はその定数と質は別だというふうに思っていて、質の向上に関しては、きちんとした、今までもやっていただいたように勉強会等々、質の向上に努めるべきというのが一つと、あとは、そういう調査権利に関しても、やっぱり報酬、政務活動費をどんどん上げるためにも、やっぱり削減してというのは、そのまま現状で増やせというのは非常に難しいなというがあるので、私の中ではそういうふうに見解を出させていただきました。皆さんがそれで議論にさせていただく中で、どうなのかということは分からないですけども、私の考えはそこです。

○坂倉広子委員長 ありがとうございます。

世古委員。

○世古安秀委員 結論的にいいますと、前回冒頭に最初に提出させていただきましたように、現在では、現状は1名減がいいのかなというふうに考えております。

その理由としては、本来ならばやっぱり定数そのまま維持して、議員の議会力も維持をして、そして、すべきだというふうには思っておりますけれども、なかなか鳥羽には離島があったり、地域が分散しているというふうなことも考えて、地域の様々ないろいろな方々が議会へ出てくるほうがいいだろうというふうには思っております。

ただ、やっぱり今般の社会情勢からいうと、なかなか大幅な減というのは難しく、1名減で考えていくのが望ましいかなというふうには思っております。定数減については、一遍に減らすということやなしに、やっぱり段階的に今回減らして、また、次の期のときにもまた考えるというふうな段階的な削減を、減らすのであればすべきかなということで、1名減というふうには考えております。

以上です。

○坂倉広子委員長 ありがとうございます。

○山本哲也委員 私は、今、多分たくさんしゃべらせてもらってるんであれですけども、基本的に考えは変わりなく、考えの根拠にしるところも全く変更がありません。

減らしていいという主張はずっとさせてもらっているんですけども、この間、いろいろな方と話しさせてもらってる中、どうやって説明したら説明しやすいかなというところで、いい例えないかなと言うとったんですけども、そのときに挙げられた例えが、今、現状、野球の球場を想像してもらおうと、野球やとちょっとあれかもしれないですけども、14人でフィールドを守るとる状況やというところなんですよね。それを10人で守るようになったら、それは1人が守らなあかんスペースは増えるから、大変にもなるし、チームとしての力は落ちるんじゃないかということは言われるのが、その現状維持派の維持せなあかん理由の一つになっတာかなというふうに思うんですけども、それを今、じゃ、鳥羽市議会で見えてみて、14人がフィールド内におるかといったら、そうじゃないんじゃないかというのが僕の主張のところで、なので、フィールド内におらへん人もおるから、そのおらへん分のところはもう外したってもいいんじゃないというのが主張の一つでございます。

だから、戸上さん、どうやって答えるんやというところ、その議会力、活発な議会にするにはどうやって求めていくんやというところは、それはいろんな仕組みは議会としてはつくってきたので、それに乗っかる議員を選んでもらうというのは、やっぱりそれは市民の皆さんのところに任せやんと、我々が選ぶことはできないかなというふうにも思いますし、仕組みとしては、議員間討論とか、委員会討論とか、こういった時間とかもありますんで、活発に討論できるだけの素地はつくられているんじゃないかなというのは、僕、思うんですよ。あとは、それを議員が生かせるかどうかというところなんかとは思って、そこは戸上さんおっしゃるように、僕も前言いましたけれども、ここからもう市民の皆さんとの共同作業で、我々が出した結果に対して市民が応えてもらって、議会力を落とさない議会にしてもらおうというところの作業をしてもらうことになるかなというふうには思っています。

減らした分、いろいろ前のところにも書かせてもらいましたけれども、サポーター制度とか、まだまだ鳥羽市議会としても活用できていない住民参画のところというのは、まだまだあるんじゃないかなというふうに思うんで、その辺は十分に検討していくあれはあるかなというふうに思います。

減らしてもいいんじゃないかという方の中でも、僕、いろいろと考え方が違うところがたくさんあって、人

口が減っているからとかというところもそうですし、先ほど言いましたけれども、それで単に減らしていいところじゃないんじゃないかなというふうにも思いますし、アンケートの声を大事にしましょうというの、もちろん分かるんですけども、大事にせなあかん声というのは、アンケートに直接書かれたところの声じゃなくて、その声が何でそういう声になってとるかというところやと思うんですよ。

戸上さんおっしゃってもうたように、働きもせえへんとか、発言もないような議員さんが多いというふうに見られるから、減らしていいんじゃないかという声が生まれてきておるんであって、ミライトークとかでもやっとなるように、ああしてほしい、こうしてほしいとかというのを聞いてしまうと、100万円配ってほしいんやという声が市民の8割からあったら、それは市議会が、じゃ、100万円配れやというのは違うと思うんですよ。じゃ、何で100万円配れて言っとなるかの根っこを探しにいかんとあかんの違うかなと思っていますので、その市民アンケートを大事にしましょうというのは分かるんですけども、何でそういう声が出てきとるかというところの解決をしに行かんと、僕はあかんのじゃないかなと思っとなるんで、ただ単にその市民の皆さんが、議員を減らしましょうという声を大事にしとったら、僕は議会としてあかんと思うんです。

なので、市民の声を大事にしましょうと言っている方については、その辺はどう考えとんのかなというところはひとつ聞きたいなとも思いますし、何かその辺を安易に、市民が言っているから減らしましょうと言ってしまうんじゃ、今回減らすに当たっても、議会としての責任って軽過ぎひんかなと思ってしまうんで、もっと議会として考えて、議会としての答えをしっかりと出さんと、僕は安易に減らすことは絶対、僕は減らすほうに賛成なんですけれども、安易に減らすことだけは反対なんで、しっかり意見を持った上で減らしてほしいなと思いますし、私にとったら、14人で守っておったところを13とか、12でいけるんやから、前向きな削減というところを提案したいなというふうに思っていますので、そんな感じです。

○坂倉広子委員長 ありがとうございます。

坂倉紀男委員、お願いします。

○坂倉紀男委員 当初から申し上げておりますように、議員定数に関する考え方のレポートでも既にもう提出してありますけれども、今も山本委員のほうから話も出ておりましたが、市民アンケートなどでも削減については10人以下にしろというような極論が43%というふうな数字が出ているような現実を考えたときに、そしてまた、この間の5人の市民の皆さんでいろいろな意見を聞かせていただいたわけですけども、私自身がご意見を聞かせていただいておりますと、やはり定数は削減したほうがいいと、減らしたほうがいいという意見が強いように私は思っております。

そういったことを基本にして、私は一貫して今の14名を12名にまで下げて、そして将来は10名までを視野に入れながら、皆さんでまた10年かけて考えていくんじゃないかなというふうに思っております。いろんな考え方の方々が見えるわけですけども、漠然とした部分もあり、また、きちっとした部分も出てくるかと思うんですけども、後から理屈が追っかけるような話合いはあまりしないほうがいいんじゃないかなというふうに考えます。

ただ、大きなウエートを占めるのは、やはり市民の、あるいは有権者の皆さん方の考え方にどこまで沿っていけるかということを議会のほうも真剣に考えなければいかんというふうに思います。

以上です。

○坂倉広子委員長 ありがとうございます。

では、河村副議長、お願いします。

○河村 孝委員 私も当初の考え方に変わりはありません。安易に定数削減はするべきではないというのが、私の根本的な考え方のスタートです。戸上委員と一利委員がおっしゃっているところは、もう全くそのとおりだと私も思うところです。

ただしというところで、今回、1減を提案させてもらっています。各論の話はずっと今までもしゃべってきたんで細かいところには入りませんが、私が今、副議長という役職を皆さんからいただいて、やらせてもらっていますけれども、今までの議会の中での、私の役割というか、ちょっと逆説的な話にはなるんですけども、そういったところの調整をしてきた役どころが、私の役目やったかなというふうに思っています、現状維持を主張される方、削減を主張される方、特に削減を主張されるのは2、というふうに主張されている方多いと思うんですけども、本当にその2減に明確な、副委員長おっしゃるように、根拠があるのかというところでは、なかなか現状維持の方がおっしゃられている、議会力を低下させてはならないというところにおいても、今の2減の、皆さん主張されていることというのは、市民アンケートに重きを置かれている方が多いとは思いますが、僕はそれだけではないというふうに思っています。

その折衷案というか、落としどころではないのかなというのが、私の1減の発想だと思います。2減の方も、そこにお話を聞いていると乗れるのではないのかなと。この10年をかけて1減、1減を視野に入れて、今回は1減というところに乗れるのではないのではないのかなと。この方も見受けられるので、一利委員おっしゃるように、じゃ、減が多いから、すばっと2減で、現状維持の意見は無視していいのかという話の決め方というのは、民主主義である以上は、最後は多数決で決めなきゃならないんですけども、これだけ白熱した議論が続く中で、すばっと、じゃ、2減でいいのかというところに、私もすごく不安を感じます。

そういったところで、皆さんのおっしゃっている意見の中間のところが私の意見なのかなと思っていたら、私はそういう考えであります。議会力も低下させずに、なおかつ市民の意見も取り入れながらということの中間案だと私は思っていますので、この1減というところの私の考え方は変わらないです。2減の方、何とか現状維持を訴えている人たちの意見も、どこかで折り合いつけられるならば、ぜひ、私が提案している1減も視野に入れていただければなというふうに思います。

以上です。

○坂倉広子委員長 ありがとうございます。

では、浜口一利委員、お願いします。

○浜口一利委員 これまでにも私の思いというのはもう何回も言ったわけなんですけれども、一番私が言いたいのは、大変、今、特にこれまでなかったくらい市民の声というのは厳しい。議会に対して、議員に対しても厳しい意見というのが、もう本当に私も感じています。原因はどこにあるかということだと思うんですけども、14名でこれまで頑張ってきた中でもうこのような厳しい声がある。一般質問とか委員会でも活発な、これまで以上に私は活発だったとは思いますが、その中でもやはり市民の声というのは厳しいところがある。

だけれども、もう少し議会としてのいろいろやってきたことというのは、やっぱり市民の方も考えてほしい

なというところで、私も、このような流れの中で定数削減に走るというのは、ちょっと一歩立ち止まって考えてほしいなというところがあったもので、現状維持で、14人でもう一度頑張ってみましょうというのが私の思いです。そういうところなんですけれども。ここで10名でもできるとか、それは12名でも、それはできると思いますよ。だけれども、今のこの中で10名でもちゃんとできますという自信というのは、なかなか私はどこでそんな考えになったか、ちょっと分かりません。

一般質問したり、委員会で閣達にするというのが議員の仕事ではないもので、ほかにもいろいろ、分かっていると思います。市民の中に入ってというのが、やっぱり数があつての、議会として、議員としての役目の一つかと思えます。だから、こういう流れの中で、定数削減に走らずにもう少し考えてほしいなというところだと思わなければならない、その中で現状維持を訴えてきたところです。

以上です。

○坂倉広子委員長 ありがとうございます。

それでは、中世古泉委員、よろしくお願ひいたします。

○中世古 泉委員 再三申し上げたと思うんですが、現状では定数減に向かうしかないのかなというふうに考えております。ただ、減員数については、皆さん、まだ今から議論の上で決めるべきやと思えますので、方向としたり定数減というのはもうしようがないのかなというふうに思っております。

以上です。

○坂倉広子委員長 それでは、瀬崎委員お願ひします。

瀬崎委員、どうぞ。

○瀬崎伸一委員 本当にいろいろ考えて、自分の中で答え書かせていただいたとおりで、幅を持たせた書き方をさせていただいたところにちょっとすけべなところがあるなというのは、自分の中でも感じているんですけれども、現在の14名であるということの根拠も、実は自分の中では、これだから14人だというのも、いろいろ調べたり、いろいろ聞いて回ったりしても、明確にこれだから14人要るのかなというのが見つけられていないというのがまず前提としてあつて、市民アンケートを取ったりしたときに、議員1人当たりの人口が幾つであるのかという資料が、たしかホームページにつけられたような気がするんですけれども、市民が口にされている、例えば熊野市が12名にされた。尾鷲市が10名にされた。伊勢市とか志摩市も同じく2名ずつ下げている。結構、そのほうが明確に何か2名減を主張している根拠みたいなのが、あるわけじゃないんですけれども、数字的にはそれを追いやすいのかなと。

市民の声として2名減を言われる声は、周りもみんな2名で減しておるんやったら、鳥羽も2名減にしたらええやないかというような向きに向いとるのかなというのが非常に感じて、今回、市民アンケートを取るとき母体となるデータも、結局は1人当たり1,500人程度であったところが1,200人程度になってきているのが、2名減をした場合は、また戻して1,400人ぐらいになるよというのが示されたら、恐らくそれに市民は、じゃ、そうしたらええやんって乗るのかなという動きだったのかなというのは自分の中で感じて、じゃ、2名減なのかなというところから、まず自分の考えがスタートしました。

組織というか、いわゆる何かものを動かす組織、団体は、やっぱりスケールメリット、たくさん人間がいる、いろんな多種多様な人がいるということがどうしても必要になってくるものだと思うので、本来、議会も

14人というのは変わらないのと違うのかなとも思う考えもあります。

何を根拠にしているかということ、鳥羽市は課とか消防本部とかもありますけれども、そういったセクションを考えると、現在14。一つの課の中に、農水であったら農林課もあれば、水産課もあれば、商工課もあるというような感じのセクションをいろいろ考えていくと、結構50幾つとか60近くあるので、それを、じゃ、議員が、1人幾つずつ見たらいけるのかということのような考え方をしていくと、実際、14人では足らんやないかというような、自分の中でも実はシミュレーションもあって、じゃ、何を根拠に私は自分の考えをまとめ上げたらいいのかということの最終結論は、議会の中で常任委員会を予算決算と行政の二本立てにしたところで、委員長、副委員長、議長、副議長、全ての役職を数えたときに13という数字が自分の中で出たので、であれば、まずは13人おれば、1人一つの役職で議会が回れるのかなというような、ごめんなさい、そんな弱い根拠しか自分の中では、削減のところには理由はないです。

もちろん市民の声を大事にしたい。市民の声は削減の方向へ向いているから、私の当初出させていただいた論調からいくと、今、現状維持を主張することはどうしても風としてできやんという書き方をさせていただいたんですけど、そういったちょっとおぼろげというか、曖昧なところでしか私の中では根拠はありませんもので、本来なら現状維持というか、現数でも、本当なら議会力というか、いわゆる議会の機能というなら、足らんと違うかなという気がして、ちょっとそんな思いで。

ただ、市民が、アンケートを取り、公聴会をやりで、削減をと言うてる。自分の周りの方に聞いても、やっぱり削減致し方なしやなどという声しか私は聞いていないです。であれば、段階的に1、要は、削減はしたでしょうという主張のできる最小数は1だと思うので、そこを最終結論に、ごめんなさい、言い方悪いですけども、落とすところにするというのが結論としては一番、ごめんなさい、傷は浅くて済むかなという気がしています。すみません、そんなようなどころでございます。

○坂倉広子委員長 ありがとうございます。

それでは、議長、何かご意見があるようであれば賜りますが。

○木下順一議長 今日のところ特段ありませんけれども、皆さんそれぞれの意見を言っていたのかなと思っておりますので、この後、委員長、副委員長に導いていただければなと思っています。

以上です。

○坂倉広子委員長 ありがとうございます。

それでは、皆様にもご意見いただきましたし、議論が進んでまいったと思っておりますので、ここで今回の協議会の進め方についてはこのようにお聞きさせていただき、そして、現状では、皆様のご意見を賜った中では、以前に、5月16日にいただいた意見の中の変化はないというふうに確認させていただいたように思いますが。

ありがとうございます。

現状では、議員数の削減についての意見が多数となっておりますが、ここまでの議論で、現状維持・削減についての意見にお変わりはございませんでしょうか。

濱口正久委員。

○濱口正久委員 今、現状維持か削減かの変わりはないかという話ですけども、何人減らすとかというのはま

た別な話なんでしょうか。それは別の話で。

○坂倉広子委員長 はい。

よろしいでしょうか。

○濱口正久委員 はい。

○坂倉広子委員長 ご質問がありましたけれども、現状維持か削減かというご議論になったかと思います。協議を進めるに当たり、事前に配付させていただきました前回の議論の概要について、いろいろ振り返りをさせていただきましたので、このことについてお変わりがないということで、引き続き協議を進めてまいります。

まず、定員を現状維持とするのか、それとも人数についてはともかく減員とするのか、その方向性を決めていければと思いますが、いかがでしょうか。

(「削減か現状か。人数についてはまた決めるとして」の声あり)

○坂倉広子委員長 はい。

よろしいでしょうか。

それでは、異議なしということで、それでは方向性についての協議に進みたいと思います。

今後の協議を進めていくに当たり、まずは定数の方向性を決めたいと思いますが、人数については今後協議するとして、現状では定員の削減に係る意見が多数であることから、まずは削減するという方向性でよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○坂倉広子委員長 ありがとうございます。

戸上委員、よろしいでしょうか。

○戸上 健委員 僕は現状維持派ですけれども、現状維持、もしくは増員派ですけれども、皆さんが削減ということであればそれに従います。

○坂倉広子委員長 ありがとうございます。

それでは、議員定数については、削減する方向で今後の協議を進めていきたいと思います。具体的な削減人数については次回に協議したいと思います。削減に当たっては、削減による影響についてどのように対応していくのかについても検討が必要となりますので、そのあたりについても皆さんの意見をいただきたいと思います。

それでは、議会改革推進特別委員会を6月17日金曜の本会議終了後に開催したいと思いますので、ご参集をお願いいたします。

(「委員長、ごめん。ちょっと止めるようですけれども」の声あり)

○坂倉広子委員長 戸上委員、どうぞ。

○戸上 健委員 削減という方向に決まって、それで次回、何人削減するかという議論とおっしゃいました。僕は、あくまでも現状維持という立場です。しかし、現状維持の立場であったとしても、議員数削減というのはみんなで決めたから、戸上さんは何人にするんやと、もうあんたは5人でええと言うんかとか、そういう人数を、現状維持派であっても言うということになりますか。

○坂倉広子委員長 はい。

○戸上 健委員 分かりました。

○山本哲也委員 皆さんで削減についての話をするので、そういった形でお願いしたい。

○戸上 健委員 分かりました。

○坂倉広子委員長 よろしく願いいたします。

これをもちまして議会改革推進特別委員会を終了いたします。

ありがとうございました。

(午後 2時03分 散会)

委員長はこの会議録をつくりここに署名する。

令和4年6月8日

議会改革推進特別委員長 坂 倉 広 子